

学校支援ボランティアからうべ協育ネットへ

～うべ協育ネットへの足がかりとして～

【宇部市 藤山中学校区】

地域の概要

藤山中学校区は、宇部市のほぼ中央部に位置し、鶉ノ島小学校区と藤山小学校区からなっています。江戸時代に埋め立てられた干拓地です。それまでは浅瀬が広がる地域で、その中にあった島が「鶉の島」と呼ばれていました。また陸地であったところの地形が「犬の尾」に似ているところから、藤山校区の「居能」という地名ができたという説があります。

人口	15,943人	
世帯数	7,359世帯	
対象校及び 児童生徒数	藤山中学校	463人
	鶉ノ島小学校	231人
	藤山小学校	683人

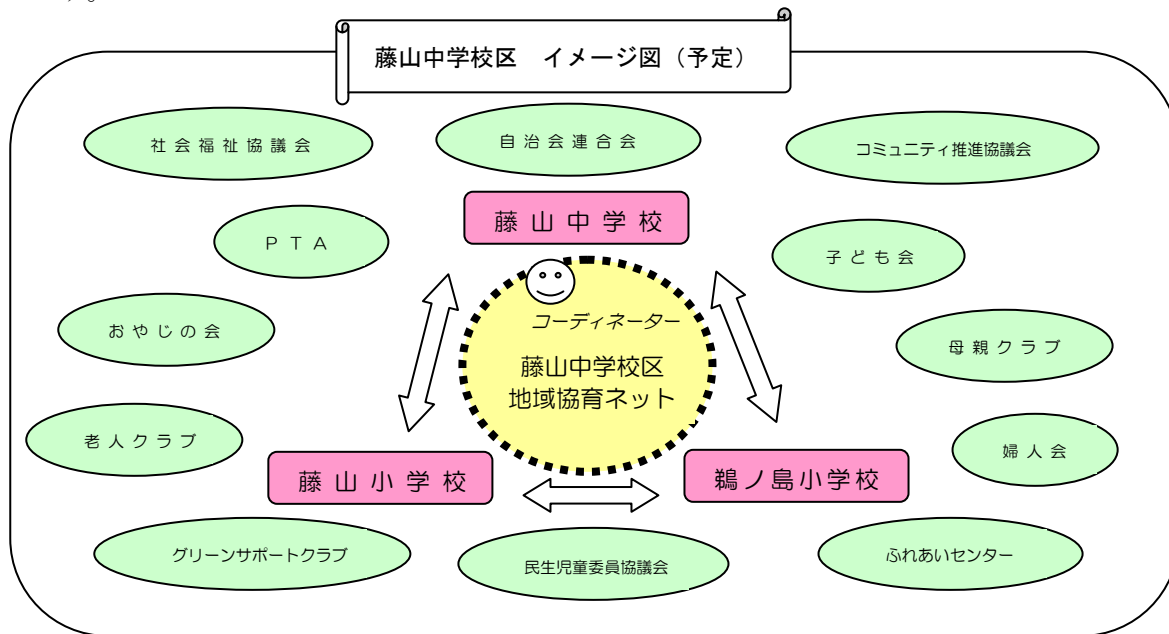
組織の内容

宇部市では、平成25年度にほとんどの小・中学校にコミュニティ・スクール制度が導入され、藤山中学校区内でも各学校に学校運営協議会が設置されました。この3つの運営協議会が推進母体として、「うべ協育ネット」の構築に向けて取り組んでいます。

この夏、小小連携、小中連携のひとつとして、3校の校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、研修主任で会議を行い、子どもたちの9年間の育ちについて共通理解を図りました。

また、両地域とも子どもたちの育ちには関心が高く、子ども会や放課後子ども教室、子ども委員会などの活動を地域の方が積極的に支援しています。

今後、藤山中学校区に「うべ協育ネット」が根付いていくよう、行政の支援も大切であると考えています。



特色・重点的な取組

各小・中学校では、開かれた学校づくりのひとつとして、多くのボランティアの方に学校支援にかかわっていただいています。また、学校も地域貢献として地域行事への児童生徒の参加に協力し、Win-Winの関係を築いています。

この学校と地域の良好な関係が、子どもたちの教育に良い影響を与えています。

主な活動の紹介

～学校支援ボランティア～

藤山中学校では、地域や保護者の方も学校運営に参画していただくというスタンスで、様々な角度から学校の支援をしていただいています。茶道・華道部への指導や、図書館での書籍整理、図書館経営、朝のあいさつ運動などです。地域の方が学校に入ること、生徒を見守る目が多くなるとともに、生徒にとっても地域の方が身近な存在になっています。



図書館ボランティア



家庭科の時間

鵜ノ島小学校でも、多くの地域の方にボランティアに来ていただいています。家庭科の裁縫の授業では、地域の先生5～6人の方が協力してくださりました。基本的な縫い方やミシンの使い方をも丁寧にご教授くださり、個人授業のようにきめ細かな指導ができました。子どもたちは、小物作りを楽しみにしています。

藤山小学校では、4年生の総合的な学習の時間に多くの地域の方に来ていただきました。竹やどんぐり、割り箸などを利用して、竹鉄砲やけん玉などを作りました。子どもたちは、工夫して物を作る楽しさや喜びを地域の先生方から教わっていました。



総合的な学習の時間



中学生の里帰り

～小中連携～

小中連携のひとつに「中学生の里帰り」があります。中学1年生が出身小学校に里帰りし、小学生と交流するものです。中学校生活や部活動などの様子についての6年生からの質問に対し、中学生が答える場面もありました。

中1ギャップの解消にもつながっています。

成果と課題

地域の方にボランティアとして学校に来ていただくことにより、児童生徒の授業に取り組む意欲や意識が高まっています。感謝の念も芽生え、平成25年度全県共通のテーマである「豊かな心を育む教育」の推進の一助になっています。

しかし、ボランティアの活躍できる場がまだまだ限られており、できるだけ多く活躍できる場を設定する必要があります。

今後の取組

ボランティアの方が、子どもたちや学校への理解を深め、更に地域へ情報発信をしていただくことが、地域ぐるみで子どもを育てるという意識の醸成につながると考えます。ボランティアの積極的な支援が「うべ協育ネット」への第一歩となります。

今後、「うべ協育ネット」を広げていくためにはコーディネーターが必要になってきます。コーディネーターの養成に努めていきたいと考えています。